

# 世界に誇れる極上の会津米づくり

「目指そう 今年も特A 会津コシ1等米 100%」

## 両沼地方米づくり情報 第1号 平成27年4月15日

発行：JA会津みどり営農部・各総合支店、会津坂下農業普及所・金山普及所

### 1 気象情報（仙台管区气象台発表「東北地方1か月予報」より抜粋）

＜4月11日から5月10日までの天候見通し＞

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

### 2 育苗期間の温度管理

「良い苗」とは…

- ①病気にかかっていないこと → 種子消毒、塩水選、適切な薬剤施用、温度管理
- ②苗丈や葉齢の揃いが良いこと → 十分な浸種と催芽・出芽管理
- ③苗質が良い(ずっしりしている)こと → 適正な温度管理と水管理

(1)催芽 ～絶対に30℃以上の高温にしない！～

催芽温度はもみ枯細菌病対策として28℃とし、袋の内部まで均一になるように薄く広げましょう。

(2)播種作業 ～確実に立枯病の防除を～

播種時に苗立枯病の防除を必ず実施しましょう。病原菌により効果のある薬剤が違うので、下の表1を参考に薬剤防除しましょう。

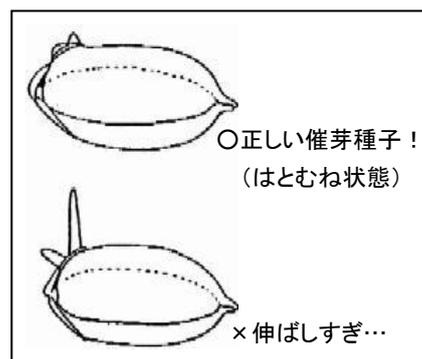


表1 苗立枯病に登録のある薬剤(例)

農薬名	適用病虫害名 使用目的	使用時期	使用方法	使用回数
ダコニール1000	苗立枯病 (リゾプス菌)	は種時から緑化期 (但し、は種14日後まで)	育苗箱1箱あたり500～1000倍液0.5Lまたは、1000～2000倍液1Lを土壌かん注する。	2回以内
タチガレエースM液剤	苗立枯病 (フザリウム菌) (ピシウム菌) ムレ苗防止 根の生育促進 移植時の活着促進	は種時または 発芽後	育苗箱1箱あたり500～1000倍液0.5Lを土壌かん注する。	1回
		は種時	育苗箱1箱あたり1000倍液1Lを土壌かん注する。	

※農薬を使用する際は、必ずラベルをよく読んで、使用基準を守りましょう。

☆春の農作業安全運動期間中です！〔4/1～5/31〕  
安全な農作業を心掛けましょう。

トラクターは、最も農作業事故の多い農業機械です。ゆとりのある作業に心掛けましょう。



(3)出芽 ～30℃以上の高温にしないこと～

育苗器を利用する場合は温度を28℃に設定し、5mm～10mm を目安に芽が伸びすぎないように注意しつつ行いましょう。**30℃以上の高温には絶対にしないこと！**

被覆資材を利用した無加温出芽では、28℃目安の温度管理をさらに注意深く行いましょう。

(4)緑化 ～高温管理は徒長のもと～

昼間 20～25℃夜間 15℃を目安とし、強い光に急に当てないようにしましょう。

苗丈が 1.5～2cm になったら平張りをはずします。

かん水は午前中におこなう。播種時に苗立枯病防除をしていない場合はこの時期に実施しましょう(防除は夕方ではなく午前中に！)。

(5)硬化 ～過保護にしない～

昼 20℃、夜間 10～15℃を目安にしましょう。

かん水は夕方に行わず、朝のうちに行いましょう(まめなかん水は徒長のもと)。

表2 育苗期に注意すべき病害

病名	発生の様子(症状)	防除法、対処法
リゾープス属菌による立枯病	出芽～緑化時に箱全体が白カビで覆われる。	出芽期 32℃以上の高温、緑化期以降 10℃以下の低温、過湿を避ける。 ダコニール 1000 による薬剤防除(表 1 参照)。
ピシウム属菌による立枯病	地際部にはカビが見えない。苗が円形またはドーナツ状に枯れる。	特に 10℃以下の低温を避ける。 タチガレエース M 液剤による薬剤防除(表 1 参照)。
ピシウム属菌による立枯病(ムレ苗)	急にしおれ、根の活力が弱り、葉がコヨリ状に巻いて枯死する。	5℃以下の低温にあてない。霜注意報が発令された場合、早めにハウスの裾を閉め、保温に努める。 タチガレエース M 液剤による薬剤防除(表 1 参照)。
もみ枯細菌病	芽は褐色になり、腐敗・枯死する。 葉齢が進んだ状態で感染すると、新葉は腐敗し、引っ張ると抜けるようになる。	種子伝染病のため、健全籾の使用、種子消毒による防除が基本である。 催芽・出芽は 28℃以下に管理し、ハウス内は 30℃以上の高温にならないようにする。 発病がみられた箱は、発病していないように見える部分も含めてすべて廃棄し、移植しない。



写真1 苗立枯病(ピシウム属菌)



写真2 もみ枯細菌病



写真3 もみ枯細菌病

### 3 いもち病対策について

いもち病の防除では、田植え時に「箱施用剤」を使用するのが一般的です。しかし、近年、西日本を中心に、箱施用剤のなかで、ストロビルリン系殺菌剤(QoI 剤)の耐性菌発生・拡大が問題となっており、26年度には、隣県の宮城県でストロビルリン系殺菌剤の耐性菌発生が確認されました。ストロビルリン系殺菌剤は、表3のとおりです。

表3 いもち病に登録のある主なストロビルリン系殺菌剤

種類		主な薬剤
箱施用剤	ストロビルリン系 殺菌剤	剤名に「嵐」を含む箱粒剤(嵐箱粒剤、嵐プリンス箱粒剤6、嵐ダントツ箱粒剤 等)
水面施用剤		剤名に「オリブライト」、「イモチミン」、「イモチエース」等を含む剤(オリブライト1キロ粒剤、イモチミン粒剤、イモチエース粒剤 等)
茎葉散布剤		剤名に「アミスター」を含む剤 (アミスターエイト 等)

◎対策

ストロビルリン系殺菌剤の耐性菌による被害発生を防ぐため、表4に記載のある他系統の薬剤を使用しましょう。

表4 ストロビルリン系殺菌剤以外でいもち病に登録のある剤<他系統薬剤>

種類	系統	主な薬剤
箱施用剤	抵抗性誘導剤	剤名に「Dr.オリゼ」、「アプライ」、「ルーチン」等を含む剤 (Dr.オリゼダントツ箱粒剤、アプライプリンス箱粒剤6、ルーチンアドスピノ箱粒剤 等) ツインターボ箱粒剤 08、スタウトダントツ箱粒剤 等
	MBI-R	デジタルメガフレア箱粒剤、デジタルコラトップ箱粒剤 等
水面施用剤	抵抗性誘導剤	オリゼメート粒剤 等
	MBI-R	コラトップ粒剤5 等
	その他	フジワン粒剤 等
茎葉散布剤	MBI-R	ビーム粉剤DL、ビームゾル 等
	抗生物質	カスミン液剤 等
	抗生物質・ MBI-R	ダブルカット粉剤DL、ダブルカットフロアブル 等
	その他・MBI-R 剤	ブラシン粉剤DL、ブラシンフロアブル 等

**☆極上の会津米づくり環境保全対策！稲わら焼却や野焼きは止めましょう。**

稲わらは貴重な有機資源です。燃やさずに、水田にすき込むなど有効活用しましょう。農業資材(ビニール等)の野焼きは法律で禁じられています。絶対に行わないで下さい。

御不明な点は最寄りのJA支店または普及所までお問い合わせください。

坂下総合支店営農経済課	0242-83-1791	高田業務センター	0242-54-7501
柳津総合支店営農経済課	0241-42-2616	本郷総合支店営農経済課	0242-56-2712
三島総合支店	0241-52-2257	新鶴総合支店営農経済課	0242-78-3755
昭和総合支店営農経済課	0241-57-3111	湯川総合支店営農経済課	0241-27-8221
金山総合支店営農経済課	0241-54-2011		
会津坂下農業普及所	0242-83-2113	金山普及所	0241-54-2801